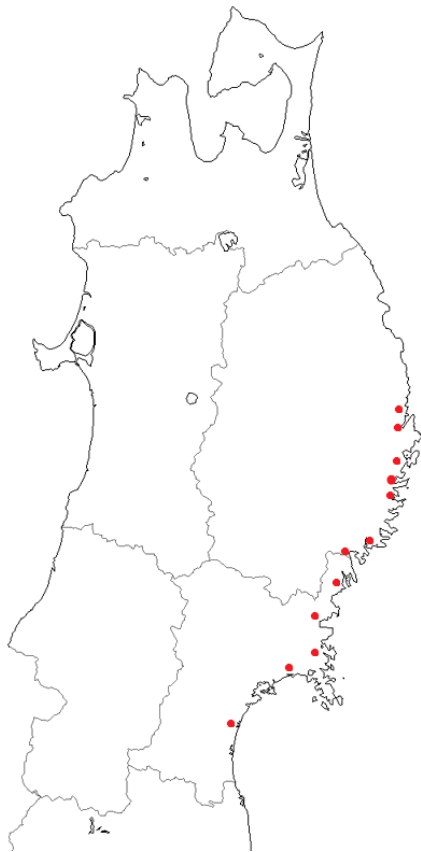


東日本大震災 東北被災地訪問報告

都市工学科3年

青山崇、池田香澄、櫻山美樹、中村大紀、本田侑

2013年2月末に東日本大震災の被災地、宮城県と岩手県に訪問しました。現地の方と皆川先生の研究室の卒業生で現在東北でお仕事をされている先輩方にお話を聞くことができました。実際に自分たちが撮ってきた写真と共に、被災地の様子をまとめます。



● 田老町

三陸海岸の中央部に位置し、「津波太郎(田老)」と異名をとるほど津波による被害を被ってきた街。そのため高さ10m、総全長2.4kmにわたる二重構造の大防潮堤が建設された。しかし今回の津波の威力の前では効果を発揮できず多くの犠牲者を出すことになった。



● 宮古市

海、山、川の豊かな自然環境があり、漁業と観光に力を注いでいる街。人口は岩手県沿岸部で最も多く、面積は岩手県の市町村で最大である。東日本大震災で発生時には、通常より約16m以上高い波が押し寄せた。



● 山田町

優美な自然環境に囲まれ、海水浴を楽しめる街である。3階建ての建物の最上階まで流れ込むような巨大な津波によって、壊滅的な被害が生じた。震災後地盤が東南東に約25cmずれてしまった。



山田線の陸中山田駅。建物は何もなく始めは駅であることすら分からなかった。黄色い点字ブロックがあったため、そこがホームであると気がついた。線路もなくなっていた。駅前の通りは店などで賑わっていただろうが、その名残は何もなくとても寂しい。

● 大槌町

大槌湾にそそぐ2本の河川の河口に位置する街。震災前の人口約1万6000人のうち、1割近くが死亡もしくは行方不明。6割の家屋が被災した。最大24mの高さの津波が押し寄せ、防潮堤は倒壊してしまった。海岸の砂浜は消失し、住宅街だった場所は瓦礫が撤去され更地になっている。



高台から見渡すと、広範囲にわたり家が流されていることが分かる。津波により、島とつながっていたJR山田線の線路の一部が、機能を失うほど破壊されている状態も見る事ができた。山田線は、震災以来、釜石～宮古間で全線運転見合わせており、まちなに残った線路は、撤去された。

● 釜石

製鉄業の企業城下町として栄えてきた街である。市街地は山地を北側に控えて東西に広がっており、東側で釜石湾に面している。湾口の防波堤は津波に対してある程度の効果を発揮したが、それでも被害は甚大なものとなってしまった。



右に建っているのは小学校である。小学校の校庭にびっしりと仮設住宅が並んでいる。仮設住宅の中には商店街や食堂もあり、生活用品の調達や食事ができる。

● 大船渡

重要港湾として古くから活躍してきた大船渡港が栄えてきた。市街中心部を流れる盛川の両岸が河岸段丘になっており、低地部とその背後にある高台の市街地とで被害の度合いが大きく分かれた。低地部は河口から2 km以上遡上した。



安藤亮平さん 2010年卒
株式会社協和エクスシオ (通信土木)
通信インフラ設備の復旧工事
大船渡市中継伝送路、通信ビル、電柱、駅、道路など

● 陸前高田

海岸から1 kmほど内陸にある中心市街地は壊滅的被害を受けた。川に沿って4 km以上内陸まで津波が到達した。高田松原という松林が有名な美しい臨海公園があったが、水没してしまった。



更地にふれあいセンターの外観が少しだけ残るだけで、かつて賑わっていた町がすべて流されたことが伺える。瓦礫を持ち上げると人体の一部が出てきたという話も聞いた。

● 気仙沼

日本各地の漁船の停泊地であり、漁業の盛んな街。今回の津波の避難施設であった魚市場を除くほぼ全域が壊滅した。また、大火災の発生であたり一面焼き尽くされた。地震によって1 m以上沈下したため、復興に際して大きな変化を余儀なくされる地域である。



鹿折唐桑(ししおりからくわ)駅前の道を塞ぐようにしてとても大きな漁船が流されてきていた。漁船の下には潰された自動車もある。この場所からは海から約800 m内陸にあることから、津波の威力は大きく広範囲に被害を及ぼしたことがわかる。この漁船は今年の9月9日から解体が始まった。



気仙沼プラザホテルの屋上からの眺め。右側の街は建物などが何もなく、津波の被害が大きかったことがわかる。

● 南三陸

深い湾を持ち養殖業の盛んな街。町役場や公立病院など重要施設が低地部に集中していたため津波による甚大な被害を受けた。最大で20 mを越えた津波は鉄道や橋梁も破壊し、数か月公共交通が寸断されてしまった。



宮城県南三陸町の国道45号線が通る歌津大橋。津波に橋脚以外流されてしまっている。津波の威力が如何に大きかったかが分かる。復旧不可能と判断され、現在は国道45号線への迂回路が作られている。



町役場や公立病院など重要施設が低地部に集中していたため津波による甚大な被害を受けた。20 mを超える津波により丸ごと流され、何もなくなっている。



報道でもよく目にする防災対策庁舎。津波に襲われ、骨組みしか残っていない。前にはたくさんの花が手向けられている。震災のモニュメントとしての庁舎保存案は、住民の反対により廃止となった。2013年度中に解体される予定。

● 女川町

日本有数の漁港である女川漁港があり、国立公園に含まれるような風光明媚な街であった。17mを越す巨大な津波は、沿岸部の鉄筋コンクリート造りのビルが6棟も横倒しにした。被害は甚大で、死亡率が最も高かった街である。



女川町郊外にあるコンビニは仮設で建てられていた。



女川地域医療センターは16mの高台に位置するも、1階の天井付近まで津波が押し寄せ、医療機器や駐車場の車が流された。(右：写真右奥に見えるのは高台の上にある医療センター、左：医療センターの柱に記録されている津波高さ、1階床より1.95m)



町の中心部では、6棟のRC造やS造の建物が横転し、うち3棟が訪問時にも残っていた。2棟は海から反対側に倒れており、引き波によって倒されたとみられる。建物の近くで見ると、津波の威力を実感した。女川町はこれらの建物の保存について、住民との協議のうえで判断するとしている。

● 石巻

県内第2の都市である石巻市は、旧川上川の河口付近に市街地が形成されており、特に中洲のある中瀬地区の商店街が賑わっていた。中洲の先端部分には石ノ森萬画館という市の観光名所もあり、チリ地震の際、津波の被害を受けた経験を教訓に、建物は津波に備えた設計となっている。



団地の建物は立っていたが周りには水が溜まっていて、冷蔵庫や家具などが外に落ちていた。電柱が刺さっている部屋もあった。

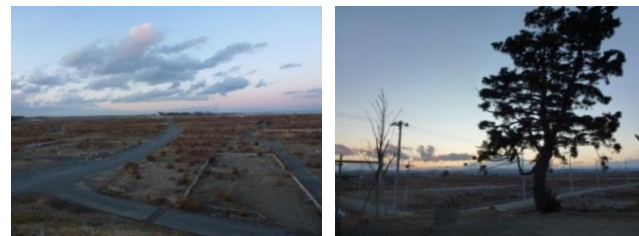
林倫子さん 2011年院卒

株式会社オオバ（建設コンサルタント）震災復興事業本部
業務名：「石巻市復興まちづくり実施計画の策定業務」

- ・土地区画整理を行うための、土地の買い取りの面談
- ・まちづくりの提案等

● 名取

宮城県のほぼ中央に位置し、仙台市沿いに平野が広がっている地域である。揺れによる被害が小さかったのに対して、津波の被害が甚大であった。沿岸部の家屋はほぼ全壊し、海から1kmの木造家屋は全て流失している。また、広い範囲で地盤沈下や液状化がおきている。



名取市関上（ゆりあげ）にある日和山富主姫神社（ひよりやまとみぬしひめ）からの街の様子。関上地区は住宅や工場が立ち並ぶ地域であったが、震災後は更地のように何も残らず、とても静かであった。

この発表が3.11東日本大震災について
もう一度考えるきっかけとなれば幸いです。